

○ 虐待による入所動向及び内容（※複数回答）

|     | 計   | %     | 男   | 女   | 身体的虐待 | 性的虐待 | ネグレクト | 心理的虐待 | その他 |
|-----|-----|-------|-----|-----|-------|------|-------|-------|-----|
| 14年 | 126 | 9.6%  | 76  | 50  | 77    | 24   | 77    | 24    | 3   |
| 15年 | 284 | 24.1% | 156 | 128 | 140   | 34   | 131   | 46    | 5   |
| 16年 | 336 | 29.3  | 184 | 152 | 156   | 35   | 162   | 24    | 6   |
| 17年 | 379 | 30.4  | 223 | 156 | 164   | 42   | 231   | 34    | 1   |

入所児童の障害の程度や特性から親の養育困難さは、虐待と判断に至る背景も含めて障害児の育ちの環境が悪化しているというのが現場の率直な感想である。

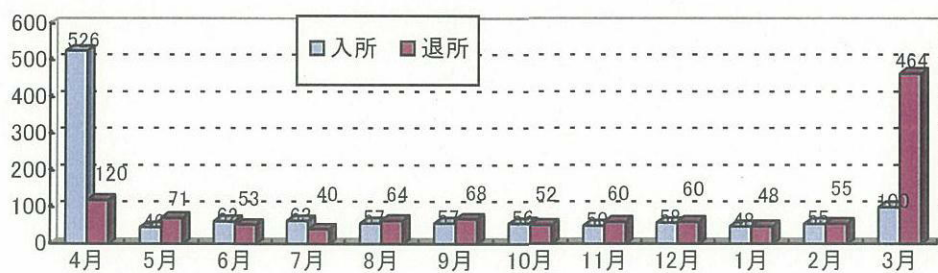
障害児の家庭、学校、地域でのさまざまな課題から施設入所に至る経緯から社会的養護の観点による実態把握が必要である。（発達支援部会 17年6月障害児の虐待に関する調査報告）

虐待防止法に伴う対策は、障害児に対する予防から障害児の福祉サービスのあり方を含めてトータルな対策の検討も必要ではないか。

4. 退所の状況

- 退所児童の進路 年間 1,200～1,500 人程度退所している。
- 児童期に家庭にもどるのは 18.1%で家族再統合の困難さがあるのは、入所時点で既に家族機能が崩壊していることから要支援家庭が多い事と関係している。
- 就労は 7.6%に止まり、自立した地域生活への移行の困難さがある。満 18 歳から年金受給の 20 歳までの間の経済的理由から選択肢が少ない事も影響している。
- 退所月は、3 月末に集中し、次いで 10 月が多く毎月一定数が分散している。
- 児童施設の過齢児対策が進まない理由に入所更生施設への移行を希望しないことや自立生活が困難なため入所施設への依存度が高く、成人援護施設の整備状況に左右されている。

17年度月別入・退所の状況



|     | 11年   | 12年   | 13年   | 14年   | 15年   | 16年   | 17年   |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 退所数 | 1,247 | 1,355 | 1,363 | 1,470 | 1,222 | 1,268 | 1,161 |
| %   |       |       |       | 11.2  | 12.1  | 12.5  | 12.7  |